

【今日の説教から】

先週から受難節に入っております。今日はエルサレム入城の箇所です。ここから最後の1週間が始まります。今日から6回にわたり、主の受難と復活を読み進めてまいりたいと思います。ゼカリヤ9:9にはこうあります。

「シオンの娘よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。」

「子馬」と訳されていますが、これは「子ろば」のことです。ギリシャ語では子ろばと子馬を区別していませんが、ヘブライ語では「子ろば」と書かれています。馬は足が速く、しばしば軍馬として用いられますが、ろばはその用には役立ちません。しかも子ろばです。これは、平和と主の謙遜の象徴であると考えられます。

「主がお入り用なのです」。これも有名な箇所です。直訳すれば、「このろばの主(所有者)が必要を抱いておられる」ということになります。世界の主であられる神様は、この子ろばの所有者でもあられます。ひと時人にその所有を委ねておられますが、絶対的には主なる神様の所有のもとにあります。それをほどいて、解放して、絶対的な所有者のもとへ連れ行け。それは全て罪につながれている人たち、すなわちすべての人間を罪から解き放って悪の所有のもとから神様のもとへと解き放つための身代わりの業が予兆されているのです。

皆様おはようございます。久しぶりの雪の朝となりました。

先週から受難節に入っております。今日はエルサレム入城の箇所です。ここから最後の1週間が始まります。今日から6回にわたり、主の受難と復活を読み進めてまいりたいと思います。ゼカリヤ9:9にはこうあります。

「シオンの娘よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。」

「子馬」と訳されていますが、これは「子ろば」のことです。ギリシャ語では子ろばと子馬を区別していませんが、ヘブライ語では「子ろば」と書かれています。馬は足が速く、しばしば軍馬として用いられますが、ろばはその用には役立ちません。しかも子ろばです。これは、平和と主の謙遜の象徴であると考えられます。

19:30 「向こうの村へ行きなさい。そこにはいったら、まだだれも乗ったことのないろばの子が見つからないのであるのを見るであろう。それを解いて、引いてきなさい。

19:31 もしだれかが『なぜ解くのか』と問うたら、『主がお入り用なのです』と、そう言いなさい」。

19:32 そこで、つかわされた者たちが行って見ると、果して、言われたとおりであった。

人の所有物を勝手にほどいて連れてくる、しかも何もあらかじめ許可を得ることなくそれをする、聞かれたらこう言いなさい、「主がお入り用なのです」と。これはいささか奇異な感じがするのではないのでしょうか。

誰のものとも知らないものを、打ち合わせがしてあるでもなく連れてくる。所有者から何をするのかと言われたら、悪びれもせずになが主の入用だから連れて行くと言えというのですから。

弟子たちは半信半疑のところがあったのではないのでしょうか。なんでそのような途方もない用向きで使いを仰せつかれるのか、心重いところがあったのではないのでしょうか。

しかし、果たして状況は全て主の仰せになられた通りでした。

ここで私たちが謎解きのヒントをギリシャ語の原文から得ることができます。

「主がお入り用なのです」とのこの言葉、これは直訳すれば「この子ろばの主・所有者が必要をもっておられるのです」ということになります。

所有者に聞かれたら、「この子ろばの所有者がお入り用です」と言えということは、何と無謀な言葉であろうかと思えます。借りたいのであれば、あなたのものであるということを明確にして、そのあなたの所有の子ろばをお借りできないだろうかと下手に出て、丁寧に、人にもものを頼むときにはそれ相応の語り口をするということは私たちの常識ではないのでしょうか。

ここでは所有者に向かって、この子ろばの所有者が…と言い出すわけですから、喧嘩を売っているような話し口なわけです。

しかしどうでしょうか。この子ろばの所有者は誰なのでしょう。確かにこの子ろばの父母を持っていて、自分のところで生まれさせ、丹精込めて育ててきたこの人のものかもしれませぬ。しかしどうでしょうか。この世界全ては誰によって創られ、始められたかということを見ると、この子ろばのみならず、わたくしたち全ても、この世界にあるすべても、主なる神様のものなのではないのでしょうか。

この一見非常識に思えたこの言葉、「この子ろばの所有者がお入り用です」という言葉は、わたくしたちの心にずしりと響いてきます。神様のお言葉として私たちの心に響いてくるのです。

この小さな子ろばの子。軍馬のように速く走れもせず、ライオンのように強くもない。平和です。主の謙遜です。主は戦いによって勝利を得るではありません。おびたしい軍隊の成果を引っ提げて白馬で街に帰還するではありません。そして名誉も権威をも強めるものではありません。主は仕える者として来られ、ご自分の命を与えるために来られたのです。

マタイ 20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

このお方が、この万物の所有者なお方が、ご自分の命と引き換えに、贖いをなして、わたくしたちを罪と死との縄目から自由にしてくださるのです。

ここに感動と喜びがあります。ここに勝利と自由があります。ここに賛美と感謝があります。

19:33 彼らが、そのろばの子を解いていると、その持ち主たちが、「なぜろばの子を解くのか」と言ったので、

19:34 「主がお入り用なのです」と答えた。

19:35 そしてそれをイエスのところに引いてきて、その子ろばの上に自分たちの上着をかけてイエスをお乗せした。

なぜろばの子を解くのか。何をもって、何の権限によって、その子を自由にできるのか。

「この子の主人が、絶対的な所有者がこの子を必要としておられるからです。」

私たちも、この絶対的なご主人様の命を受けて、「我が民を去らせよ」とエジプトの大国の王に言い放ったモーセのように、恐れることなく、ためらうことなく、まことの所有者のもとへと民を導くために、すべての人が罪と死の中から解放されんがために、わたくしたちもまた遣わされているのではないのでしょうか。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

主は私たちと共に喜んでその御姿を現され、その栄光を現わされます。主は私たちを用いて、わたくしたちと共にご自身を現わされます。そのご謙遜のゆえに御名をあがめます。

ヤコブ 2:5 愛する兄弟たちよ。よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされたのではないか。

19:36 そして進んで行かれると、人々は自分たちの上着を道に敷いた。

19:37 いよいよオリブ山の下り道あたりに近づかれると、大ぜいの弟子たちはみな喜んで、彼らが見たすべての力あるみわざについて、声高らかに神をさんびして言いはじめた、

19:38 「主の御名によってきたる王に、祝福あれ。天には平和、いと高きところには栄光あれ」。

あのイエス様のお生まれになった日の夜を思い出します。

イエス様は馬小屋の飼葉おけの上に生まれ、それがしるしだと、それがしるしだと、へりくだられた卑遜のしるしが語られた途端、あの天使の賛歌が夜の空に地に、こだましたのでした。

ルカ 2:12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見ろ。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。

2:13 するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

19:39 ところが、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った、「先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい」。

19:40 答えて言われた、「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであらう」。

う」。

ハバクク 2:11 石は石がきから叫び、梁は建物からこれに答えるからである。

創り主なる主がそこまでに人のことを思い、そこまでに身をやつして、命を捨てて愛し、救い、わたくしたちを神の子としてくださる。この恵みに対する人の賛美は、とこしえに絶えることはありません。

19:41 いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた、

19:42 「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……………しかし、それは今おまえの目に隠されている。

19:43 いつかは、敵が周囲に塁を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、

19:44 おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。

19:45 それから宮にはいり、商売人たちを追い出しはじめて、

19:46 彼らに言われた、『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたがたはそれを盗賊の巣にしてしまった」。

19:47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちはイエスを殺そうと思っていたが、

19:48 民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていたので、手のくだしようがなかった。

イザヤ 56:1 主はこう言われる、「あなたがたは公平を守って正義を行え。わが救の来るのは近く、わが助けのあらわれるのが近いからだ。

56:2 安息日を守って、これを汚さず、その手をおさえて、悪しき事をせず、このように行う人、これを堅く守る人の子はさいわいである」。

56:3 主に連なっている異邦人は言うてはならない、「主は必ずわたしをその民から分かれたれる」と。宦官もまた言うてはならない、「見よ、わたしは枯れ木だ」と。

56:4 主はこう言われる、「わが安息日を守り、わが喜ぶことを選んで、わが契約を堅く守る宦官には、

56:5 わが家のうちで、わが垣のうちで、むすこにも娘にもまさる記念のしるしと名を与え、絶えることのない、とこしえの名を与える。

56:6 また主に連なり、主に仕え、主の名を愛し、そのしもべとなり、すべて安息日を守って、これを汚さず、わが契約を堅く守る異邦人は――

56:7 わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、わが祈の家のうちで楽しませる、彼らの燔祭と犠牲とは、わが祭壇の上に受けいられる。わが家はすべての民の／祈の家となえられるからである」。

主はご自身の町、エルサレムをご覧になられ、その背きの姿を見、ご自分がここまでして民全体のための救いをなされてもなお無関心な民に対して主は涙を流されました。民は皆、祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちをはじめとして皆、背き、離れ去ってしまい、父なる神様の深き御心を悟らず、人のやりたい放題をしてその目は完全に暗くなり、祈りの家を暴利をむさぼる強盗の巣にしてしまった。主は「わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない」と言われました。

マタイ 12:7 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か知っていたなら、あなたがたは罪のない者をとがめなかったであろう。

12:8 人の子は安息日の主である」。

12:9 イエスはそこを去って、彼らの会堂にはいられた。

12:10 すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に人をいやしても、さしつかえないか」と尋ねた。

12:11 イエスは彼らに言われた、「あなたがたのうちに、一匹の羊を持っている人があると、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。

12:12 人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである」。

12:13 そしてイエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。

詩篇 51:16 あなたはいけにえを好まれません。たとえわたしが燔祭をささげても／あなたは喜ばれないでしょう。

51:17 神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心を／かろしめられません。

51:18 あなたのみこころにしたがってシオンに恵みを施し、エルサレムの城壁を築きなおしてください。

51:19 その時あなたは義のいけにえと燔祭と、全き燔祭とを喜ばれるでしょう。その時あなたの祭壇に雄牛がささげられるでしょう。

マタイ 23:37 ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人々を石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたし

はおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。

23:38 見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。

23:39 わたしは言うておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時までは、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう」。

私たちはこの時こそ、時をとらえて、わたくしたちの真の所有者であられる主のお心のうちに生き、主の御業を実行したいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちの絶対的な所有者であられる神様、あなたは愛する御子の犠牲と身代わりによって私たちが罪と死から救い出し、解放してくださいました。ご自身の創られた被造物一人一人を愛し、わが愛する者と名前を呼び、ご自身の身許へと引き寄せてくださいますから、本当にありがとうございます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン